

⑮水木しげるロードリニューアル事業

授賞機関 鳥取県 米子県土整備局 計画調査課
境港市 建設部 水木しげるロードリニューアル推進課

キーワード 水木ワールド、道路空間の再配分、3次元VR技術

全建賞審査委員会の評価ポイント

「水木しげるロード」を2車線から1車線として、車道を蛇行させることで歩行者空間と滞留スペースを大幅に広げるリニューアル事業。地域課題をコミュニティデザイン手法により解決することを企図し、その際に必要とされる多くの合意形成について、ICTをうまく活用することで解決を図った点が評価された。

1. はじめに

水木しげるロードは、JR境港駅前から水木しげる記念館までの延長約800mの道路と沿道の店舗などで構成されている。平成4年、衰退する商店街の活性化を目的に一部歩道の拡幅とあわせ、本市出身の漫画家水木しげる先生の代表作である「ゲゲゲの鬼太郎」に登場する妖怪などのブロンズ像を歩道内に設置し、親しみの持てる街路として整備された。

現在の賑わいを将来に向けて引き続き安定的なものとするため、平成25年12月にリニューアルの実施を宣言し、4年7ヶ月の歳月をかけ、平成30年7月にリニューアルオープンとなった。

2. 事業の概要

好調な状況が続いているうちに次の一手を打つという観点からスピードを重視し、リニューアル宣言の翌月には早くも庁内プロジェクトチームが発足。関係者で構成する検討委員会を立ち上げ、事業の基本構想の策定に着手した。



リニューアルパレードの様子

「誰もが訪れたいくなるおもてなしとエンターテインメントのロードづくり」を基本理念とし、「車が主役の道から人を大事にする道」「妖怪の魅力を堪能できる世界で唯一のロード」などの基本コンセプトを定めた。車道を一方通行化しさらに蛇行させることで、変化に富んだ広い歩道空間を創出し、バリアフリーに配慮した、だ

れもが快適で安全に歩ける歩道となるよう道路空間の再配分を行った。さらにこの設計内容を最大限に盛り込んだ社会実験を行い、結果を詳細設計に反映させた。また、妖怪の雰囲気と調和する落ち着いた石畳風の舗装、ブロンズ像の再配置、夜間照明演出など、公道の範疇で水木ワールドの世界感を感じることができるよう仕組みや工夫を取り入れた。



オープン後の夜の賑わい

今事業のプラットフォームに3次元VR（バーチャルリティー）技術を導入し、従来の平面図や横断図では表現しきれない部分も3D画像で表現して理解度の向上を図ったことにより、最も時間を必要とする住民合意形成をよりスムーズに展開できた。また、関係者の理解度が格段に向上したことで、後のプロセスでの手戻りも最小限に抑えられ、事業全体としての生産性の向上に大きく寄与した。

3. 事業の成果

ロード本来の基本構想に沿って昭和のイメージを残しつつ、リニューアルされた新たなインフラとしての印象（新鮮さ、モダンさ、時代性、環境等）を十分に感じられ、観光地にふさわしいホスピタリティーに富んだ空間をバリアフリーに配慮した構造で実現し、オープン以来1年間で320万人余もの来訪者を記録（前年比155%）し好調なスタートを切った。

4. おわりに

今回の事業は、単なるインフラリニューアルではなく、変化する時代を持続的に生き抜いていくための地方創生戦略の1つである。この整備で生み出される高質な空間を活用し、地域経済の軸として、仕事、雇用（人材）、消費、投資、利益、納税などのサービスや財が持続的に循環していく構造に成長することが期待される。